



「子どもロコモ」は学習面にも

まもなく中学生になる小6のみなさんは最後の小学校生活を楽しんでいるようですが、塾での学習も少しずつ密度が高まっているように感じます。この調子で中学への準備を進めておきましょう。

さて、ロコモティブ・シンドロームという言葉をご存知でしょうか。運動器の病気や老化によって、筋肉や関節などが衰え、立ったり歩いたりなどの日常的な動作が困難になり、最終的には介護が必要になる高齢者の症状を言います。しかしこれと似たような症状が子どもにも増えてきて「子どもロコモ症候群」と呼ばれているそうです。具体的には、片脚でしっかり立つ、手をまっすぐ挙げる、しゃがみ込む、前屈するなどの基本動作のできない子が急増しているとのこと。外遊びの減少や食生活の偏りなどいくつかの要因があるようですが、いずれにしろ気になるところです。また、これと同じ症状が学習面でも起きているのではないかと感じるが増えてきました。それも中学生になってから気づくこともあったりします。例えば千葉県の高校入試には作図が100%出題されるので、中3の受験生は必死で練習します。ところがまずコンパスを使って円を描くことが苦手な人がいます。どうも小学生の頃にコンパスを使うことが面白くて遊びながら大小いろんな円を描いているうちに図形の性質に気づくという経験をしてこなかったようなのです。中3理科の天体分野の学習で「月は東と西のどちらから昇るの？」と真剣に聞いてくる人もいます。夜空の月や星を見上げることがなかったのでしょうか。別に数学ができない訳ではないのに、間違うのが心配だからと言って整数を100で割るのを筆算でする人もいます。2で割る時も筆算です。この先友達と割り勘で払うときも筆算するのでしょうか。もっとも最近は大人もスマホの電卓機能を使っていますが。地球儀をクルクル回して遊んでいれば地球が丸いことも世界の国の位置も少しはわかるし、英語の歌を意味がわからなくても真似して歌っていれば英語の語感とリズムが身に付きます。

狭い意味での「勉強する」ではなく、日常生活の様々な場面にある「学習のきっかけ」を見直してみませんか！